



松本興業株式会社共同開発

インフラを支える計測器

インフラデータマッピング装置

YUTIS



装置概要

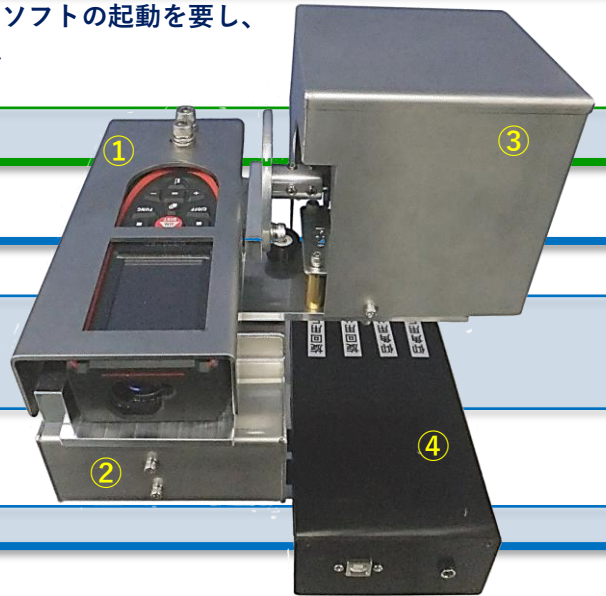
I 本装置は測定した平面の座標位置情報を記録する装置です。

II 本装置は作業者によるPCの準備、装置本体の設置、測定ソフトの起動を要し、測定は対象となる地点に照準を合わせて入力することで、座標位置の特定が自動で行われます。

III 測定対象：橋梁、壁面(インフラ構造物)

装置構成

①	測定器	直線距離および仰角を測定する
②	旋回方向駆動部	旋回方向に移動させるための機構。 角度はサーボモーターのエンコーダ値から算出した値を画面に表示する
③	仰角方向駆動部	仰角方向に移動させるための機構。 角度はサーボモーターのエンコーダ値から算出した値を画面に表示する
④	制御BOX	本装置を駆動させるための機構



主な装置仕様

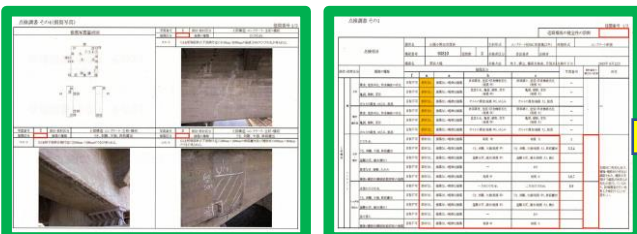
本体	◆ 装置寸法(本体)：幅240×高さ285×奥行200mm ※寸法は仕様により変更となる場合があります。
	◆ 材質/治具：アルミ ◆ 測定器：レーザー距離計 ◆ コントローラ：PC用有線ゲームパッド
	◆ 制御BOX：NKSオリジナル ◆ 供給電源：単3乾電池 ×2、モバイルバッテリー
	◆ 接続方法：Bluetooth ◆ 測定距離上限：測定対象から直線距離で5m
ソフトウェア	◆ 測定用ソフトウェア：インフラデータマッピング用ソフトウェア (N・K・System製) ◆ 測定データ保存：橋梁ごと、日ごとのファイルに保存



- 熟練点検者でなくても検査が可能
- 過去点検情報との照合・外的な劣化進行確認が容易
- 点検コストを削減

インフラデータマッピング

劣化情報を手作業で記録



マッピングでデータ図面化

- 劣化情報を正確・客観的に共有
- 点検毎の劣化をデータ照合で比較

